

観ノ会 第六回公演

野宮

本三番目能の真髓

能 友枝雄人
セルリアンタワー能楽堂



令和5年
4 / 22
(土)

午後2時開演
(午後1時開場)

午後2時開演

能野宮

〔配役〕

シテ／里女
六条御息所の壹
友枝雄人
ワキ／旅僧
大日方寛
アイ／嵯峨の里人
高澤祐介

〔囃子〕

笛／栗林祐輔
小鼓／成田達志
大鼓／國川純

〔地謡〕

香川靖嗣
大村定
狩野了一
金子敬一郎
内田成信
佐々木多門
友枝真也
佐藤陽

〔後見〕

中村邦生
佐藤寛泰

〔あらすじ〕

作者／世阿弥
季節／秋（陰曆9月）
所／山城国野宮

秋の暮れ、旅の僧が嵯峨野の野宮の旧跡に立ち寄る。そこに現れた美しい女に何者かと尋ねると、「ここは昔、伊勢神宮に仕える齋宮が潔斎の日を送られた野宮です。長月七日の今日、私は人知れず宮所を清め、ご神事をしているのです。どうぞ、お帰りください」と言う。今日この日に昔を思い出すわけをお話しくささい」と言う僧に、女は皇太子の未亡人と

なり、その後光源氏と忍び逢う仲間になったが、源氏とも疎遠となってしまった。伊勢に下る娘と共に都を離れることを決意し野宮に籠っていたところに、源氏が忍んで来たのが今日なのだ語る。女はかつてを振り返り複雑な思いを吐露し、自分は御息所であると明かして鳥居の陰に隠れて見えなくなってしまう。僧が御息所の回向をしていると、網代車に乗った御息所が現れ、葵上に敗れた車争いの様子、源氏が野宮に忍んで来た思い出から逃れられない妄執を舞い、また網代車に乗って去って行った。

演能後開始

観ノ後座

喜多流の野宮とは
本三番目能とは

鬘物の最高峰として大切に扱われる「野宮」。喜多流独自の表現とは何か、その真髄を演能を終わつた能楽師自らが語ります。

〔出演〕

馬場あき子（歌人）
青柳恵介（評論家、観ノ会発起人代表）
友枝雄人（喜多流シテ方能楽師）

（午後4時半頃終了）

〔友枝雄人〕

喜多流シテ方能楽師
昭和42年生まれ。故友枝喜久夫の孫、友枝昭世の養子。故喜多実、友枝昭世に師事。重要無形文化財総合指定保持者。3歳で初舞台「鞍馬天狗」花見。10歳で初シテ「経政」。平成6年「猩々乱」、14年「道成寺」、16年「石橋」、22年「翁」、23年「望月」、令和3年「石橋」一人獅子を抜く。五蘊会主宰。2009年小学館白洲賞受賞。慶應義塾大学経済学部卒業。公益社団法人能楽協会会員。

〔観ノ会冊子〕

「観-VI」を当日無料で配布いたします。
「能野宮」論考をはじめ、様々な分野の方々による能に関する試考を掲載しています。
※「観-I~V」をご希望の方には、各1冊500円にてお分けいたします。

前売開始

2023年1月21日（土）
午前11時より

●料金（税込）

SS席 12,000円
S席 10,000円
A席 8,000円
B席 6,000円
栈敷席 4,000円

- 本作の詞章と現代語訳、鑑賞のポイントは下記QRコードよりお読み頂けます。鑑賞前にお目通しください。
- 「野宮」告知動画を2022年11月6日（日）より配信いたします。下記QRコードよりご覧ください。

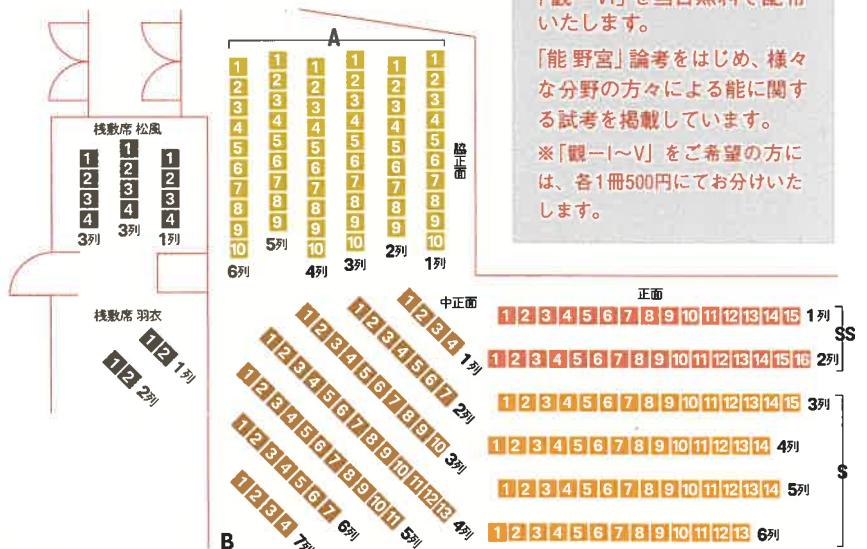
チケット申し込み

● 友枝雄人事務局
03-5950-4543
● 「友枝家の能」HP
<https://tomoeda-kai.com>



セルリアンタワー能楽堂

〒150-8512
東京都渋谷区桜丘町26番1号 B2F
TEL: 03-3477-6412 FAX: 03-3477-0190
表写真撮影: 鍋島徳恭



※観ノ会開催にあたっては、安全にご鑑賞いただくために、新型コロナウイルス感染予防対策を実施しております。お客様には、マスク着用、手指消毒、検温にご協力をお願いいたします。